ふるさと歴史散歩

◆第25話◆

文――多古町郷土史の会

「ふるさと歴史散歩」は、多古町に古くからある神社寺院、歌碑句碑などを紹介するコーナーです。

華藏院（けぞういん）

喜多六三番地の一にある真言宗の寺です。由緒については寺社台帳には不詳とされていて、かなり古い寺らしく明治の初めには一時小学校として使用されたこともありました。

華藏院境内入口付近には大師堂があり、弘法大師像が安置されています。

現在は、本尊を阿弥陀如来とし、宗祖を弘法大師、興教大師とする真言宗智山派に変わりはなく、住職は飯笹地福寺住職篠崎照憲師が兼任しています。

今も毎月15日に「おにっき」という集まりがあり、御珠玉を回して先祖供養を行います。また、毎年2月10日には三十三年忌を過ぎた祖先全霊を供養するといわれている「百万遍（ひゃくまんべん）」が行われています。

華藏院本殿

弘法大師像が安置されている大師堂

白山社（はくさんしゃ）

喜多二二七番地に祀（まつ）られ、集落全体を見下ろせる小高いところにあり、旧井野村の鎮守様として崇められています。

社について村の鈴木家が代々にわたり本殿の鍵を預かっており、同家の同意がなければ開扉はできません。また、鈴木家だけが行う正月行事もあり、昔の鍵元制度が現在も続けられています。

境内には本殿と並ぶ木造の小宮「古峰社」があります。この社の本宮は栃木県鹿沼にあり、火災盗難除けの神とされています。井野では、幕末から明治年間に度重なる火災に遭い、村人たちの難儀は非常なものであったため、最近まで毎年代参人を送っていました。

白山社から望む喜多集落と田園風景

白山社本殿（右）と小宮の古峰社

『関節リウマチについて』

文／国保多古中央病院　内科　松本拓実

今回は宇都宮先生に代わり、松本が担当いたします。今号では、今後私が専門としていく関節リウマチに関して書きたいと思います。

関節リウマチは、関節の滑膜（かつまく）という場所で炎症が起こり、初期には関節の腫れやこわばり、進行すると関節・骨の破壊・変形など、日常生活に大きな影響を及ぼす病気です。30代から50代の女性に多く発症します。以前は良い薬もなく、関節の破壊が進んで寝たきりになったり、日常生活に大きな支障をきたすことが多かったようです。しかし近年、関節リウマチの治療は大きく進歩し、早くから治療を開始することで、関節の破壊を防ぐことが可能になってきています。そのためには、症状のごく早期から関節リウマチに気づき、治療を開始する必要があります。

では、どのような症状があったら、関節リウマチが疑われるのでしょうか。

①朝の手のこわばりが30分以上続く
②手足の関節が腫れる

この2つのいずれかの症状がある場合には関節リウマチの疑いがあるため、一度病院を受診することをお勧めします。

もちろん関節が腫れる病気はほかにもたくさんあるため、注意が必要です。一例を挙げると、変形性関節症という病気があり、これはより高齢者に多く、関節をたくさん使うことで関節に負担がかかり、関節の変形が起こります。関節リウマチは、手首や手指の第2・3関節に起こりやすいですが、変形性関節症は、手指の第1関節に起こりやすく、また関節もごつごつしているのが特徴です。治療は基本的には痛み止めを使いますが、ひざや股関節など大きな関節では、手術を行うこともあります。

どちらにせよ、朝の手のこわばり、関節の腫れや痛みがあれば、一度病院を受診してください。

最後に、私は昨年10月から半年間、多古中央病院の内科で診療させていただき、外来や病棟で多くの患者様を担当させていただきました。この半年間の診療経験を生かし、今後も研さんしたいと思います。半年間、どうもありがとうございました。

Book

本の森

―私の一冊―

『かわいいこねこをもらってください』

本植人：平山美紗登（みさと）さん（谷津）

この本は、ペットを飼っていて手放そうかと考えている人に、ぜひ読んでもらいたいです。

小学生の女の子〝ちい〟は、カラスに襲われている箱から「ちいちい」と聞こえたので、カラスを追い払い箱をのぞきました。すると傷だらけの子猫が…。放っておけず子猫を持ち帰ると、お母さんには「アパートだから飼えない」と言われました。でも、子猫の目にアリがたくさんついていたので、病院に連れて行って元気にしてもらい、少しだけ飼うことになりました。その時私は、なぜペットを捨ててしまうのか、命を大切にしないのか悲しく思いました。

飼い続けることはできないので、ちいとお母さんは飼い主を探します。友達からばかにされることもあったけど探し続け、手放す日の前日に見つかりホッとします。新しい飼い主に「ちいた」と名付けられ、その後も会うことができ、ちいはとても喜びました。

この本を読んだのは3年生の時。自分は犬を飼っているので、きちんと最後まで飼おうと心に決め、また少しでもペットを捨てる人がいなくなればいいなと思いました。

私は、一週間に4冊ぐらい本を読みます。特に秘密シリーズが好きで、ある一つのことが詳しく載っている本を読み、分かったことを家族のみんなに話します。これからも、本をたくさん読んでいろいろなことを知り、家族に教えたいと思います。

26年目

『かわいいこねこをもらってください』
作：なりゆきわかこ
絵：垂石眞子　発行：ポプラ社

〈あらすじ〉
小学生の“ちい”が子猫を拾いましたが、自宅はアパートのため飼えません。たくさんの人に声を掛け、子猫をもらってくれる人を探し続けます。小さな、大切な命を守ろうとした女の子のお話です。

今回紹介した本は、プラザ図書室に置いてあります。
リクエストにもお応えしますので、お気軽にご利用ください。
■コミュニティプラザ図書室
☎79-3406
開館時間：午前8時30分～午後5時
【3月の休館日】毎週月曜日・20日(火)